

2025年度 事業報告書

2025年(令和7年)4月1日から2026年(令和8年)3月31日まで

公益財団法人 SOMPO美術財団

I. SOMPO美術館関係事項

1. 美術館で実体験できる「個性的で魅力的な展覧会」で、心豊かな社会をつくる。

<1> 美術作品の収集、保存、公開(博物館法第3条1項1号、同法第13条3項、公益目的事業1)

(1) 展覧会の開催

① 藤田嗣治 7つの情熱

会期:4月12日(土)~6月22日(日)

共催:日本経済新聞社、特別協賛:SOMPOホールディングス

特別協力:損保ジャパン、協力:日本航空

後援:在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ、新宿区、J-WAVE

企画協力:ブレントラスト

藤田嗣治(レオナール・フジタ 1886-1968)の芸術を、7つの視点(情熱)で紹介する展覧会。藤田研究の第一人者として知られるシルヴィー・ビュイッソン氏の監修のもと、藤田の創作源を「自己表現」「風景」「前衛」「東方と西方」「女性」「子ども」「天国と天使」という「7つの情熱」で読み解くとともに、東郷青児、川島理一郎、海老原喜之助など、藤田と関わりの深い日本人画家9名の作品を第二部で紹介し、藤田が同時代に果たした役割に迫った。個人所蔵を含む国内外の油彩、版画、資料等約170点を展示した。

【関連イベント】

プレス内覧会

(4月12日)

当館館長と担当学芸員のほか、フランス大使館ジェレミー・フォラ＝ジェム公使が開幕の挨拶をした。

学芸員のギャラリートーク

(4月19日、4月25日)

対話による鑑賞会「ギャラリー★で★トーク・アート」

(6月9日)

【主な放送・掲載誌等】

J-WAVE「DIG UP!」(4/10)、日本経済新聞東京・名古屋・札幌地域朝刊(4/11)、NHK Eテレ「日曜美術館アートシーン」(5/4、5/11)ウェブサイト「美術手帖」、「美術展ナビ」等

② 大正イマジュリイの世界 デザインとイラストレーションの青春 1900s—1930s

会期:7月12日(土)~8月31日(日)

共催:毎日新聞社、特別協賛:SOMPOホールディングス

特別協力:損保ジャパン

協力:大正イマジュリイ学会、後援:新宿区、TOKYO MX

監修:山田俊幸、企画協力:株式会社キュレーターズ

「イマジュリイ」とは、絵葉書などの大量に複製される絵を意味するフランス語であり、日本では、技術革新のもと明治後期から昭和初期にかけて出版文化が花開いた。本展は、そこに創造的な足跡を残した作家12名と9つのテーマを取り上げ、出版文化と美術にまつわる約330点によってデザインとイラストレーションの黎明期を紹介。藤島武二、竹久夢二、岸田劉生、高畠華宵や小林かいち、古賀春江などの主要作家に当館の東郷青児作品を加え、全体を時系列に「新しい芸術と抒情」「さまざまな意匠」「流行と大衆の時代」の3部に大別して展示した。

【関連イベント等】

開会式・内覧会 (7月11日)

開会式では展覧会準備中に急逝された監修者の山田俊幸氏のご遺族と関係者、大正イマジュリィ学会会員らを招待し、追悼の意と謝意を表した。

学芸員のギャラリートーク (7月18日、7月25日)

対話による鑑賞会「ふぁみりー★で★とーく・あーと」 (8月18日)

累計入館者数700万人を達成 (8月29日)

1976年の開館以降の累計入館者数700万人を達成。館長から700万人目の来館者に記念品としてゴッホ《ひまわり》のセラミックアートプレートとひまわり缶クッキー、展覧会図録を贈呈した。

【主な放送・掲載誌等】

TOKYO MX テレビ「宣伝に夢中！」(7/13)、美術手帖開幕レポート、美術展ナビ紹介記事、美術手帖グッズ紹介記事、毎日新聞特集記事(8/30)等

③ モーリス・ユトリロ展

会期:9月20日(土)～12月14日(日)

共催:朝日新聞社、テレビ朝日、特別協賛:SOMPOホールディングス

特別協力:損保ジャパン、協力:日本航空

後援:在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、新宿区

企画協力:IS ART INC.

エコール・ド・パリの画家のひとりとして数えられるモーリス・ユトリロ(1883-1955)の初期から晩年までの作品、書簡・手稿等の資料を通じて作家の全体像を提示した。白を基調とする画面から色彩へと移る表現の変遷をたどり、同一モチーフの反復、建築の輪郭や空の扱い、絵の具の層が生む物質感に注目し、写真や印刷が視覚経験を変えた20世紀に、なお絵画で街を描くことの意味を問い直し、名所絵でも記録でもない「生活の場としての街」の気配を浮かび上がらせたユトリロ像を、日本で広く複製され親しまれてきた受容史も踏まえて紹介した。

【関連イベント等】

開会式・内覧会 (9月19日)

開会式では駐日フランス大使からご挨拶をいただいた。

学芸員によるギャラリートーク (9月26日、10月1日)

インスタライブ (9月20日)

インスタグラムのライブ配信において、学芸員とアートディレクター・ナカムラクニオ氏が展示室で作品解説を行った。

ギャラリー★で★トーク・アート (11月10日)

ギャラリー★で★言葉で感じるアート (11月17日)

【主な放送・掲載誌等】

朝日新聞「美の履歴書」(10/7)、テレ朝「グッド！モーニング」(10/10)、BAYFM 田中美里「Cruisin' before noon」(10/14)、美術展ナビ「亀蔵 meets」(10/30,11/1,11/3)、東京新聞「読み解きアート」(11/11)、TOKYO FM「THE TRAD」(11/11)、NHK Eテレ日曜美術館本編(11/23、11/30)、産経新聞(11/24)、ねこのめ美術館(11/27、2/6)

④ 開館50周年記念 モダンアートの街・新宿

会期:2026年1月10日(土)~2月15日(日)

共催:東京新聞、特別協賛:SOMPOホールディングス、特別協力:損保ジャパン

後援:新宿区、TOKYO MX

本展は、当館50年の歴史において、新宿ゆかりの美術を取り上げる初の試みであり、開館50周年の幕開けとなる展覧会であった。明治時代末期、新宿には新進的な芸術家たちが集まり、活発な活動の場を持ち、その後も芸術家たちが芸術家たちを呼び込み、新宿は近代美術の大きな拠点の一つとなった。本展の大きな特色は、中村彝、佐伯祐三から松本竣介、宮脇愛子まで、新宿ゆかりの芸術家たちの約半世紀にわたる軌跡をたどることにあり、新宿の美術館としてのみならず、全国的にも類例を見ない企画として好評を博した。

【関連イベント】

開会式・内覧会 (1月9日)

学芸員によるギャラリートーク (1月16日、1月23日)

ギャラリー★で★トーク・アート (2月9日)

【主な掲載・放送等】

朝日新聞「美の履歴書」(1/20)、東京新聞(2/1)、産経新聞(2/4)、週刊文春(2/5)、毎日新聞夕刊「美の越境」(2/12)等

⑤ FACE展2026／絵画のゆくえ2026

会期:3月7日(土)~3月29日(日)

共催:読売新聞社、特別協賛:SOMPOホールディングス、

特別協力:損保ジャパン、後援:文化庁、東京都、新宿区

FACE展2026では第14回目となる公募コンテストFACE2026で入選した57点を展示。また、絵画のゆくえ2026を同時開催し、前年のFACE2025におけるグランプリ・優秀賞受賞者の新作・近作32点を紹介している。

【関連イベント】

表彰式・内覧会 (3月6日)

FACE2026受賞者を顕彰するとともに絵画のゆくえ2026の出品作家を紹介した。

ギャラリー★で★トーク・アート (3月23日)

【主な掲載・放送等】

読売新聞、美術の窓、月刊美術等で紹介されたほか、インターネットミュージアムや「美術展ナビ」では作家や作品画像、作家コメントが紹介された。コンペ情報サイト「登竜門」、ウェブ版「美術手帖」にグランプリ受賞作家のインタビュー記事を掲載した。

(2) 展覧会鑑賞支援

① 図録・資料等(博物館法第3条1項7号)

A. 全ての展覧会で図録を販売するとともに、作品リストの館内配布や当館ウェブサイトへの掲載を行った。

B. 観覧者のスマートフォンで翻訳できるQRトランスレーターを使い、展覧会概要

や章解説を6か国語で表示した。

C.「藤田嗣治」では作品リストのほかの年譜を鑑賞ガイドとして配布した。

D.「大正イマジユリイの世界」では時代背景を解説した鑑賞ガイドを無償配布した。

また、展示への関心を深めるツールとして、作品のデザインを活かしたブックカバー作成キットを当館ウェブサイトで配布した。文庫・新書・コミックに対応した13種類のデザインと同デザインのぬり絵素材を用意した。

E.「モーリス・ユトリロ展」では作家への理解を促すため、第一次世界大戦中に書かれた自伝的テキスト『幼少期から今日までの話』の一部を紹介する冊子を無償配布した。

② 学芸員によるギャラリートーク(博物館法第3条1項8号)

以下の展覧会において、学芸員によるギャラリートークを開催した。美術館移転後では、初めて自由参加方式で実施したところ、大勢の参加者が集まったため、藤田嗣治展の2回目から2グループ制で実施した。

展覧会名	実施日時	参加者数
藤田嗣治	4/19(土) 11:00-11:30	60人超
	4/25(金) 18:20-19:00	80人超
大正イマジユリイの世界	7/18(金) 17:50-18:40	40人超
	7/25(金) 17:50-18:40	90人超
モーリス・ユトリロ展	9/26(金) 18:20-19:00	100人超
	10/1(水) 10:45-11:30	100人超
モダンアートの街・新宿	1/16(金) 17:55-18:45	50人超
	1/23(金) 17:55-18:45	80人超

③ 音声ガイド(博物館法第3条1項8号)

「モーリス・ユトリロ展」では声優をナビゲーターとする音声ガイド(約30分、650円)を貸し出した。

(3) 展覧会別開催日数及び観覧者数(博物館法第13条1項6号)

(単位:人)

展覧会名	会期	開催日数	有料観覧者数	無料観覧者数	観覧者数合計	1日平均
藤田嗣治	4/12-6/22	62日	35,801	14,815	50,616	816
大正イマジユリイの世界	7/12-8/31	44日	24,341	14,632	38,973	886
モーリス・ユトリロ展	9/20-12/14	74日	80,855	26,277	107,132	1,448
モダンアートの街・新宿	1/10-2/15	32日	17,783	10,738	28,521	891
FACE展2026/ 絵画のゆくえ2026	3/7-3/29	20日	5,888	4,271	10,159	508
合計		232日	164,668	70,733	235,401	1,015
<参考> 昨年度合計		256日	150,824	65,387	216,211	845

(4) 館蔵品・資料・文献の収集・整備

① 館蔵品展示

ゴッホ《ひまわり》は3階展示ケースで常設展示したほか、次のとおり館蔵品を展示した。

A. 藤田嗣治

藤田嗣治《猫と少女》《小川の橋》《家》

東郷青児《自画像》《ビルヌーブ・ルーベ》《ベッド》《子供》《窓》

藤田と東郷による着物のデザイン画

B. 大正イマジユリィの世界

東郷青児《コントラバスを弾く》《パラソルさせる女》《窓》《グラン・コルニッシュ》

C. モーリス・ユトリロ展

モーリス・ユトリロ《モンマルトルのサクレ=クール寺院》

東郷青児《南仏風景》、《ムードンの風景》

D. モダンアートの街・新宿

東郷青児《ピエロ》、《黒い手袋》、《超現実派の散歩》、有島生馬《黒衣の女》

E. FACE展2026

東郷青児《超現実派の散歩》

【主な掲載・放送等】

NHK Eテレ「MIX びじゅチューン！」再放送(6/6、6/20)、フジテレビ「今夜はナゾトレ」(12/9)、Business Insider Japan(12/12,12/19,12/26,1/2)、テレビ朝日「グッド！モーニング」(8/27)、朝日新聞「私のイチオシコレクション」(1/13)

② 収集に関する事項

FACE2026グランプリ作品の収蔵

(3月6日)

吉田 茉莉子《天泣》2025年 油彩・蜜蝋・カンヴァス 194×162cm

③ 館蔵品の保全

A. 休館中に作品のメンテナンス作業を実施した。(2月19日～2月25日)

B. 作品の棚卸や状態点検を実施するとともに定期的に収蔵庫清掃を実施した。

C. 温湿度や害虫発生状況の定期的な確認作業により収蔵庫や展示室の環境は適切な状態に保たれた。薬剤散布による防虫防除処理は不要であった。

④ 作品・資料等のデータ整備(博物館法第3条1項3号)

当館ウェブサイト経由で館蔵品情報を公開しており、順次画像データの公開と情報の充実に取り組んだ。

⑤ 著作権の管理

東郷青児画伯、東郷たまみ画伯の著作権は管理規程に基づき適正に管理した。
(許諾 27 件)

(5) 館蔵品の貸与等(博物館法第3条2項)

【館蔵品貸与実績】

作品名	貸与先等
東郷青児作品 31 点 ジョルジュ・ルオー版画 14 点	「網走信用金庫 100 周年事業 SOMPO美術館 東郷青児×ジョルジュ・ルオー」網走市立美術館 (9/26-11/9)
東郷青児《ビルヌーブ・ルーベ》、 《自画像》、《ベッド》、《子供》	「藤田嗣治 7つの情熱」 パラミタミュージアム、神戸市立小磯記念美術館、鹿児島市立美術館、ふくやま美術館を巡回
ピエール=オーギュスト・ルノワール《帽子の娘》	「第 20 回世界バラ会議福山大会記念事業 Rose イメージの系譜 ールドゥーテからシャガール、北斎、芦雪、『ベルサイユのばら』まで」 ふくやま美術館 (4/5-6/8)

作品名	貸与先等
東郷青児《超現実派の散歩》、 《パラソルさせる女》	「OPAM 開館 10 周年記念 LINKS ―大分と、世界と。」 大分県立美術館（4/26-6/22）
ポール・ゴーガン 《アリスカンの並木路、アルル》 岸田劉生《虎ノ門風景》 リヒャルト・ロラン・ホルスト 『ファン・ゴッホ展』（1892 年）カタログ	「ゴッホ・インパクト ―生成する情熱」 ポーラ美術館（5/31-11/30）
奥村土牛《朝顔》	「再興第 110 回院展記念 同人たちの出世作といま ― 無窮をめざして」松坂屋美術館（6/24-8/4）
東郷青児《超現実派の散歩》	「おさんぽ展 ―空也上人から谷ロジローまで」滋賀県立 美術館（9/20-11/16）
東山魁夷《潮音》	「東山魁夷館開館 35 周年記念展 東山魁夷 永遠の海 ―私は、いま、波の音を聴いている」 長野県立美術館（10/4-11/16）
ピエール=オーギュスト・ルノワール 《浴女》	「令和 6 年能登半島地震・令和 6 年奥能登豪雨復興支援 事業 ひと、能登、アート。」 金沢 21 世紀美術館（12/13-2026.3/1）

（6）調査・研究（博物館法第 13 条第 3 項）

- ① 運営委員会の開催（博物館法第 3 条 1 項 11 号）
館長の諮問機関である運営委員会を 3 回開催し、展覧会に関する意見聴取等を行った。
- ② 執筆・講演活動（博物館法第 3 条 1 項 5 号、7 号、8 号、第 3 条 2 項）
 - A. 「モーリス・ユトリロ展」、「モダンアートの街・新宿」、「FACE 展 2026」において図録を執筆、作成した。
 - B. 「藤田嗣治」図録の翻訳に携わるとともに、鑑賞ガイドを作成した。
 - C. 「モーリス・ユトリロ展」開催に合わせ東京美術から出版された書籍『もっと知りたいユトリロ』の監修・執筆を行った。
 - D. 「藤田嗣治」、「大正イマジユリイの世界」、「モーリス・ユトリロ展」で鑑賞ガイドを作成した。
 - E. 網走市美術館で開催された「網走信用金庫 100 周年事業 SOMPO 美術館 東郷青児 × ジョルジュ・ルオー」において、当館学芸員がギャラリーツアーを行った。
(9月26日)
 - F. 調布市武者小路実篤記念館主催の原田マハ氏講演会「『実篤のひまわり』日本人のゴッホ愛は〈白樺〉から始まった」にゲストスピーカーとして参加した。
(11月9日)

<2> 展覧施設の運営管理（博物館法第 3 条 3 項、第 13 条第 5 項）

（1）施設運営（公益目的事業 1）

- ① チケット販売
 - A. 当年度から学生割引を 25 歳以下の割引に変更し、青少年の来館を促した。
 - B. 遊び予約サイト「アソビュー！」でのオンラインチケットやプレイガイド等での事前購入券やペア券販売のほか、館内でも当日券を販売した。
 - C. 訪日外国人向けチケットパス「THE TOKYO PASS」に参加した。
 - D. 「年間パスポート 2025」を 2025 年 6 月末までオンライン販売した。
累計販売数：551 枚、のべ入場者：2516 人、割引入場者：359 人

E.「年間パスポート2026」は2月10日に販売を開始し、6月末まで販売する。
年間パスポートは、スマホアプリによるデジタルチケットで、年度内に開催する
展覧会全てに何度でも入場可能、同行者1名は当日一般料金の半額で入場
できる特典つき。なお、2026年度は50周年を記念し、オリジナル手ぬぐい付
きパスポートも数量限定で販売している。

- ② 西新宿のビジネスパーソンや新宿区民を主な対象に、毎週金曜日は20時まで開館
時間を延長した。〔「FACE展2026」を除く〕
- ③ 施設案内や非常時に備えスタッフを増員するとともに展覧会ごとに研修を実施した。
- ④ ビル管理会社（SOMPOコーポレートサービス（株））に協力し、消火設備、自動扉、
空調設備等の点検及び動作確認を定期的の実施した。

（2）来館者サービスの提供

- ① ミュージアムショップの運営（公益目的事業1）
展覧会図録や館蔵品グッズの販売のほか、展覧会オリジナルグッズを受託販売し
た。50周年プロジェクトにおいて、50周年ロゴや館蔵品をモチーフにしたオリジナル
グッズを作成、頒布し、新たに設置した新宿ブースでは新宿の企業や店舗とコラボ
レーションした商品を販売した。
- ② ミュージアムカフェ等の運営（収益目的事業1）
FACE展期間を除く開館日の土日祝日に来館者を対象にミュージアムカフェを営業
した。カフェにおいても50周年ロゴを使ったスリーブ（紙コップに巻く帯）を作成した。

＜3＞ 広報・情報収集活動（博物館法第3条3項）

（1）開館50周年プロジェクト

2026年7月に開館50周年を迎えるにあたり、以下のとおり実施した。

- ① リリース配信 （10月15日、2月6日）
SOMPOホールディングス（株）、損害保険ジャパン（株）との3者連名でプロジェクト
に関するリリース第1弾を発信した。
リリース第2弾では、オリジナルグッズやコラボグッズの販売、《ひまわり》高精細3D
CG映像体験コーナーの設置について発信した。
- ② 特設ページの開設 （10月15日）
当館ウェブサイトにて50周年特設ページを開設し、以下のコンテンツを公開している。
50周年を迎えるにあたってのステートメント
記念ロゴやイベント・グッズ紹介
過去の展覧会ポスターの紹介
当館に縁のある8名の方からのお祝いメッセージ（私とSOMPO美術館）
50周年記念ムービー（約60秒）
また、情報サイト「インターネットミュージアム」でも当館の50周年特集ページを公開
している。
- ③ 開館50周年記念式典の開催 （1月9日）
モダンアートの街・新宿展の開会式を兼ねて、記念式典を開催した。新宿区長をは
じめ新宿所在の企業や店舗等の関係者を招待し、これまでの支援に感謝する場を

設けた。また、「美術・新宿・ココロの再発見。」をテーマに約14か月にわたる記念プロジェクトの実施を表明し、区長から祝辞をいただくとともにテープカットを行った。

④ 50周年関連制作物

- A. 美術館ロゴと同じく東郷青児《超現実派の散歩》をモチーフにした50周年記念ロゴを作成し、ウェブサイトや広報印刷物、名刺、オリジナルグッズ等に使用した。
- B. 50周年を紹介するチラシを作成し、館内や式典等で配布した。
- C. 美術館1階ロビーに美術館50年の歩みを紹介する年表コーナーを設置した。
- D. 美術館外周に設置してあるフラッグやポスターボードを、50周年ロゴを使ったデザインに変更した。

⑤ コラボレーションイベント

A. 新宿区との連携

「モダンアートの街・新宿」展において新宿区所有作品のポストカードを来館した区民にプレゼントした。また、対話による鑑賞会において、新宿区民枠を設けて実施した。

B. ミュージアムツアー

(2月5日)

新宿ブースの協力店舗の方々と新宿区文化観光産業部を招待し、学芸員による「モダンアートの街・新宿」の解説とミュージアムショップの見学会を実施した。

C. アートといちご～滋賀県産みおしずく～を楽しむ会

(2月6日)

新宿高野とコラボレーションしたカルチャーイベントを新宿高野本店フルーツサロンにおいて、午前の部と午後の部の2回開催した。学芸員による「モダンアートの街・新宿」の紹介と新宿高野の果物のスペシャリストによる食材の話とともにいちごのミニコースを楽しんでいた。

D. デジタルスタンプラリー第1期

(2月22日)

「おいしい新宿再発見」をテーマに飲食店15店を巡るスタンプラリーを実施し、当館で賞品の引き渡しを行うことで新規来館を促した。

スタンプラリー期間 2月21日～3月22日

賞品引き渡し期間 3月7日～3月29日(FACE展会期)

E. オフィスワーカー向け勉強会

(2月25日、26日、3月4日、5日)

都内オフィスワーカーを対象にオンライン研修(アート思考)と貸し切り鑑賞会を組み合わせたイベントを開催した。オンライン研修は4日間で7回実施。貸し切り鑑賞会は「FACE展2026」において、3月13日の閉館後に実施した。

(2) 展覧会及び美術館の広報活動

① 当年度展覧会広報

- A. 展覧会ごとにプレスリリースを作成し、プレス内覧会を開催した。
- B. 「大正イマジユリの世界」では、きもの割引を実施した。
また、東京都庭園美術館と相互割引を実施し、SNSフォロワーに展覧会を周知した。
- C. 「大正イマジユリの世界」と「モダンアートの街・新宿」のスポットCMはTOKYO MXで、「モーリス・ユトリロ展」はテレビ朝日で放送した。
- D. 「モーリス・ユトリロ展」の広報活動は共同ピーアール(株)に、その他の展覧会の広報活動や取材窓口は(株)ウインダムに業務委託した。
- E. 全ての展覧会で新宿区の「後援」を取り付け、区の広報紙等で告知、区の施設でチラシを配布した。「FACE展」では東京都や文化庁の「後援」も取り付けた。

F. みずほプレミアムクラブ、アートフェア東京等と提携し、展覧会情報を発信した。

② 次年度展覧会広報

A. 2026年度展覧会のプレチラシと年間予定表を作成し、館内や他館等で配布するとともに当館ウェブサイトでも告知した。

B. 「美術の窓」12月号、「美術展びあ」年末特集号に記事を掲載した。

③ 美術館広報

小田急線新宿駅改修工事の仮囲いを活用し新宿の魅力や情報を発信するプロジェクト「新宿の『つづき』は、もっとおもしろい。」において、当館が紹介された。また、本プロジェクトのウェブサイトにも関連記事が掲載された。

(3) ウェブサイト及びSNSによる情報発信

① 当館ウェブサイトでは、展覧会情報等を発信するとともに、ワークシートのダウンロードサービスや各種イベント、通信販売の申込受付等を行った。

② 展覧会ごとにX、Instagram、Facebook を活用し、計画的な情報発信に努めるとともに、フォトスポット設置や作品撮影を許可することで、来館者による展覧会情報の拡散を図った。

(4) 広告の実施

① 東京メトロ乃木坂駅に年間を通して展覧会ポスターを掲出した。

② 展覧会ごとに京王電鉄への交通広告を実施した。モーリス・ユトリロ展ではJRの31の駅で広告を掲出。また、XやFacebook、InstagramでSNS広告を実施した。

2. 芸術文化の知見を活かして、社会課題の解決に取り組む(公益目的事業1)

<1> 福祉分野での芸術文化の活用

(1) 鑑賞動画(博物館法第3条1項7号)

高齢者向け鑑賞動画「SOMPO美術館オンライン アートにふれる 10 分間」Vol. 1～5を当館ウェブサイト内の「オンラインで美術鑑賞～SOMPO美術館からお届けします!～」の一般公開を継続している。

(2) 調査・研究(博物館法第3条2項)

SOMPOホールディングス及びSOMPOインスティテュート・プラスと連携し、高齢者施設入居者の美術鑑賞に関する調査・研究に関する取り組みを継続。NPO法人アーツイニシアティブトウキョウと連携し、ファシリテーション体制を整えた。これにより、次年度において高齢者施設での美術鑑賞プログラム(全3回)の開催が決定した。

<2> 美術鑑賞教育の普及支援

(1) 対話による美術鑑賞

① 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業(博物館法第3条1項12号)

「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、(公財)新宿未来創造財団と「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結。ボランティア・ガイドスタッフによる学校での事前授業支援と、美術館での鑑賞会を原則セットとしたプログラムとなっている。多国籍の児童生徒の増加に伴い、鑑賞会で使用する学習ツールとして『多言語鑑賞カード』を活用した。

【事業実施結果】

事前授業	小学校 24 校 1,361 名、中学校 6 校 373 名 合 計 30 校 1,734 名	ガイドスタッフ 延べ 462 名
鑑賞会	小学校 29 校 1,611 名、中学校 7 校 584 名 合 計 36 校 2,195 名	ガイドスタッフ 延べ 922 名
ガイドスタッフ在籍数 88 名 活動延べ人数 1,384 名		

- ② 対話による鑑賞会「ギャラリー★で★トーク・アート」(博物館法第3条1項8号)
事前申込制で休館日にガイドスタッフと参加者が対話しながら作品を楽しむ鑑賞会。
「大正イマジュリイの世界」では、夏休み企画として「ふぁみりー★で★とーく・あーと」と銘打ち、家族やグループでの参加を呼びかけた。
また、開館50周年の幕開けとなった「モダンアートの街・新宿」では、新宿区民向けの申込枠を設けた。

藤田嗣治	6/9(月) 14 時～16 時	参加者 69 名(うち中学生以下 1 名) ガイドスタッフ:32 名
大正イマジュリイの世界	8/18(月) 9 時半～11 時半	参加者 29 名(うち中学生以下 4 名) ガイドスタッフ:25 名
モーリス・ユトリロ展	11/10(月) 14 時～16 時	参加者:78 名 ガイドスタッフ:34 名
モダンアートの街・新宿	2/9(月) 14 時～16 時	参加者:65 名 ガイドスタッフ:34 名
FACE展2026	3 月 23 日(月) 14 時～16 時	参加者:24 名 ガイドスタッフ:24 名

- ③ ギャラリー★で★言葉で感じるアート(博物館法第3条1項8号) (11月17日)
東京デフリンピックに合わせたアクセシビリティプログラムとして、聞こえない人も、聞こえる人も、みんなで見て、感じ、思うことを話しながら楽しむ手話通訳者付きの鑑賞会を開催した。

モーリス・ユトリロ展	11/17(月) 14 時～16 時	参加者:健聴者 3 名、 聞こえない・聞こえにくい人 5 名 計 8 名 ガイドスタッフ:8 名
------------	-----------------------	--

<3> 美術家の支援、表彰

(1)「FACE」の全国公募コンテストの実施

- ①「FACE2026」の選考 (11月8日)

業務委託先(ヤマト運輸(株))東京美術品支店にて審査会を実施し、1,271点の応募作品から「入選審査」と「賞審査」を経て、入選作品57点(うち受賞作品9点)を決定した。選考結果は当館及び業務委託先のウェブサイトで公表した。
コンテストの審査員は当館館長のほか以下の4名であった。

椿玲子氏(森美術館 キュレーター)
森谷佳永氏(神奈川県民ホールギャラリー 学芸員)
秋田美緒氏(国立西洋美術館学芸課 研究員)
田中龍也氏(群馬県立近代美術館 学芸員)

【受賞作品9点】

賞名	副賞金	作家名	作品
グランプリ	300万円	吉田 茉莉子	天泣

賞名	副賞金	作家名	作品
優秀賞	各50万円	伊藤 陽々咲	群れ
		黒澤 匠	幾千年
		肥沼 義幸	二柱の祈り
アンダーサーティ U 3 0 フロンティア賞	30万円	アザミ ユウカ	曲がった草
椿玲子 審査員特別賞	各10万円	村尾 伊織	remind
森谷佳永 審査員特別賞		小笠原 礼瑠	Time slip !!
秋田美緒 審査員特別賞		澁谷 由貴子	Life force
田中龍也 審査員特別賞		原 真莉亜	1 月の玉こんにゃく
オーディエンス賞	3万円	上條 暁隆	Sense of the Mountain

② 「FACE2026」表彰式 (3月6日)

表彰式を開催し、受賞者への盾の授与やフォトセッションを行うとともに、受賞・入選作家が審査員や美術関係者、マスコミ等とつながる場を提供した。

③ 「FACE2027」公募コンテストの決定

公募規定は、「FACE2026」の応募者全員に発送するとともに当館ウェブサイトに掲載、館内でも配布している。

FACE2027における審査員は当館館長のほか以下の4名である。

大島徹也氏(多摩美術大学 教授／多摩美術大学美術館 館長)

秋田美緒氏(国立西洋美術館学芸課 研究員)

田中龍也氏(群馬県立近代美術館 学芸員)

能勢陽子氏(東京オペラシティ アートギャラリー シニア・キュレーター)

(2) SOMPO美術館賞の授与

新進美術家の支援・育成を目的とする「SOMPO美術館賞」を美術団体が実施する公募展における平面作品の受賞者22名に授与した。

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
1	第 84 回 創元展	R7.4.2	殿坂 友里恵	或る時間
2	第 75 回 モダンアート展	R7.4.2	岡田 未帆	～次世代トリックアート～生物界 ～ 図形の天才達の闘いⅡ
3	第 78 回 示現会展	R.7.4.2	井上 忍	逃がした魚は…
4	第 84 回 水彩連盟展	R7.4.5	森田 雅秋	想像
5	第 111 回 光風会展	R7.4.16	松本 優月	雪原の結晶
6	第 102 回 春陽展	R7.4.19	諸星 浩子	祝福を
7	第 91 回 東光展	R7.4.26	高橋 健一	冬の日
8	第 99 回 国展	R7.4.30	成田 淑恵	猫だるま
9	第 120 回 太平洋展	R7.5.14	天野 有子	ちょっとだけだよ

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
10	第 91 回 旺玄展	R7.5.22	酒井 真紀	いつかのこもれび、風の音
11	第 39 回 日洋展	R.7.5.28	佐合 玄令	匣
12	第 81 回 現展	R7.5.31	田中 聖子	甲冑雷神馬”God of the Horse”
13	第 78 回 女流画家協会展	R7.6.6	南雲 まき	彼方
14	第 112 回 日本水彩展	R7.6.27	李 想	花と光のあいだに
15	第 109 回 二科展	R7.9.3	猪立山 三好	ひらけ初む
16	第 88 回 新制作展	R7.9.17	丹治 智陽	線路沿いの風景 A
17	第 80 回記念 行動展	R7.9.20	小林 翔己	方舟
18	第 86 回 一水会展	R7.9.23	藤原 加奈子	実りを待ちながら
19	第 92 回 版画展	R7.10.12	佐藤 翼	nest
20	第 92 回 独立展	R7.10.15	竹内 美絵	連鎖する再生1
21	第 78 回 二紀展	R7.10.18	堀之内 聖	夜を喰う
22	第 101 回 白日会展	R8.3.18	宮本 絵梨	ZONE

<4> 油彩画等の保存修復に関する新たな取組(博物館法第3条2項)

- (1) 実務責任者とサポートスタッフの2名体制で、美術品の状態点検を継続的に実施した。
また、SOMPOホールディングス及び損保ジャパンとの共同プロジェクトチームで、定期的に保存修復室等の進捗状況の確認・共有を行った。
- (2) 油彩画の保存修復に関わる美術館、大学、NPO、民間団体を訪問し、導入設備並びに修復人材に関する情報交換を実施した。
- (3) 全国美術館会議の要請を受け、川崎市市民ミュージアム被災収蔵品のレスキュー作業に実務責任者が参加した。

<5> ネットワークの構築・活用

- (1) 情報収集活動(博物館法第3条2項)
日本博物館協会や全国美術館会議、私立美術館会議が主催する会議等への出席や国内外美術館への訪問、内覧会等の出席を通じて情報収集や意見交換を行った。
- (2) デジタル活用(博物館法第3条1項3号、第3条3項)
 - ① FACEアーカイブスにFACE2025入選作品の情報を追加した。
 - ② 当館ウェブサイトのアクセシビリティ調査を実施し、必要な改修作業を実施するとともにポリシーを当館ウェブサイトで公表した。
 - ③ 50周年プロジェクトの一環として、美術館2階にゴッホ《ひまわり》を3Dスキャナーで計測し形状(凸凹)を記録して制作した高精細3DCG映像体験コーナーを設置した。
また、50周年記念ムービーを制作し当館ウェブサイト等で公開した。
- (3) 公共への協力
 - ① NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウによるサステナブル意識に関するヒアリング調査に協力した。
(5月13日)

- ② 「国際博物館の日」を記念して、当日の来館者に、東郷青児作品をモチーフにしたオリジナルステッカーを配布した。(5月18日)
- ③ 新宿消防署主催「第74回はたらく消防の写生会署名審査会」において、学芸員が特別審査員を務めた。(6月6日)
- ④ 他館の建物リニューアルに関するヒアリング・視察に対応した。(8月7日)
- ⑤ 都立新宿高校の美術館見学に対応した。(8月12日、14日)
- ⑥ 東北芸術工科大学・文化財保存修復学科の博物館実習に協力した。(9月26日)
- ⑦ 新宿区主催の新宿フィールドミュージアム(10/1～11/30)に協賛した。
- ⑧ 「モーリス・ユトリロ展」において、「こども冒険バンク」(子供の体験格差を減らす取組)に協力し、事前に申込みされた保護者の観覧料を無料にした。(参加者19名)
- ⑨ 「モダンアートの街・新宿」において、新宿区をホームタウンとするクリアソン新宿(日本フットボールリーグ所属のサッカークラブ)の選手とサポーター18名を対象に閉館後の館内で学芸員によるギャラリートークを実施した。(1月22日)

Ⅱ. 法人の概況

1. 沿革

1976年6月1日	財団法人安田火災美術財団設立
1976年7月8日	東郷青児美術館を安田火災(現:損保ジャパン)本社ビル42階に開設
1987年4月1日	安田火災東郷青児美術館に館名変更
2002年7月1日	財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更 損保ジャパン東郷青児美術館に館名変更
2010年4月1日	公益法人に移行し、公益財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更
2014年9月1日	公益財団法人損保ジャパン日本興亜美術財団に名称変更 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館に館名変更
2020年4月1日	公益財団法人SOMPO美術財団に名称変更 SOMPO美術館に館名変更し、新美術館棟へ移転
2020年7月10日	移転後初の展覧会「開館記念展」開幕
2023年3月22日	SOMPO美術財団のパーパスを策定

2. 定款に定める目的

この法人は、絵画、彫刻等の美術作品を収集し、保存するとともに広く一般の鑑賞に供し、併せて新進の創作を奨励し、もって我が国芸術文化の振興と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 美術作品の収集、保存、公開
- (2) 展覧施設の運営管理
- (3) 美術家の支援、表彰
- (4) 美術鑑賞の教育普及
- (5) 頒布品の製作、販売
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. SOMPO美術財団のパーパス

“安心・安全で信頼される美術館として 芸術文化で心豊かな社会をつくり 芸術文化を未来へつなぐ“

＜社会に提供する3つの価値＞

- 多様性のある人材やつながりにより、芸術文化の今と未来をつくる力を育む
- 身近な美術鑑賞の場の提供により、人々の感性と知的好奇心を刺激する
- ≪ひまわり≫をはじめとするコレクションを守り、活動成果とともに未来に残す

5. 主たる事務所

東京都新宿区西新宿一丁目26番1号

6. 役員等に関する事項

2025年度末現在

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
理事長 代表理事(常勤)	櫻田 謙悟	2024.6.27	前SOMPOホールディングス(株) グループCEO取締役代表執行役会長	2022.6.23
専務理事 業務執行理事 (常勤)	西脇 芳和	2024.6.27	SOMPO美術館館長	2024.6.27
理 事(非常勤)	今野 秀洋	2024.6.27	(一財)貿易・産業協力振興財団理事長	2016.6.29
理 事(非常勤)	山脇 晴子	2024.6.27	中央更生保護審査会常勤委員	2018.6.29
理 事(非常勤)	垣内 恵美子	2024.6.27	政策研究大学院大学名誉教授	2022.6.23
理 事(非常勤)	木下 直之	2024.6.27	静岡県立美術館館長	2024.6.27
理 事(非常勤)	村上 博哉	2024.6.27	武蔵野美術大学教授	2024.6.27
監 事(非常勤)	新里 智弘	2024.6.27	公認会計士	2007.6.19
監 事(非常勤)	内田 満雄	2024.6.27	公認会計士	2016.6.29
評議員(非常勤)	宝木 範義	2022.6.23	美術評論家	2008.6.24
評議員(非常勤)	小佐野 重利	2022.6.23	東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任研究員、東京大学名誉教授	2009.3.31
評議員(非常勤)	加藤 種男	2022.6.23	(公財)静岡県文化財団副理事長、 クリエイティブ・ディレクター	2016.6.29
評議員(非常勤)	越川 倫明	2022.6.23	東京藝術大学教授	2016.6.29
評議員(非常勤)	河村 潤子	2022.6.23	国立教育政策研究所名誉所員、 元(独)日本芸術文化振興会理事長	2022.6.23
評議員(非常勤)	高橋 明也	2022.6.23	東京都美術館館長	2022.6.23
評議員(非常勤)	松本 透	2022.6.23	アーティゾン美術館副館長	2022.6.23
評議員(非常勤)	山梨 絵美子	2022.6.23	千葉市美術館館長、 (公財)日本博物館協会会長	2022.6.23
評議員(非常勤)	渡邊 光一郎	2023.6.29	第一生命保険(株)特別顧問	2023.6.29
評議員(非常勤)	生嶋 章宏	2024.6.27	DIC(株)DIC川村記念美術館館長	2024.6.27
評議員(非常勤)	鈴木 俊一郎	2024.6.27	SOMPOホールディングス(株) 調査企画部特命部長	2024.6.27

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
評議員(非常勤)	小坂 佳世子	2025.6.27	損害保険ジャパン(株)執行役員[CSuO] SOMPOホールディングス(株)執行役員 グループ Deputy CSuO	2025.6.27
評議員(非常勤)	市川 アダム博康	2025.6.27	SOMPOホールディングス(株) サステナブル経営推進部長	2025.6.27

7. 職員に関する事項

2025年度末の常勤職員は19名である。

8. 役員会等に関する事項

<1> 理事会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2025年6月12日	■決議事項 2024年度事業報告及び決算報告の承認 定時評議員会の招集 ■報告事項 理事の利益相反取引の報告 活動状況報告 (2025年3月10日～6月9日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (2025年3月10日～6月9日)	原案どおり可決 原案どおり可決
2026年3月17日	■決議事項 2026年度事業計画及び収支予算等の承認 2027年度展覧会の開催 特定費用準備資金等取扱規則の改定 公益充実資金の積立 役員賠償責任保険契約の締結 理事の利益相反取引の承認 事務局長の選任 ■報告事項 2028年度以降の展覧会準備状況 活動状況報告 (2025年6月10日～2026年3月9日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (2025年6月10日～2026年3月9日)	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり出口知子を選任

<2> 評議員会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2025年6月27日	■決議事項 2024年度決算報告の承認 評議員の選任 ■報告事項 2024年度事業報告 2025年度事業計画及び収支予算等 2026年度展覧会の開催	原案どおり可決 原案どおり2名選任

9. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

届出等年月日	申請等事項
2025年5月29日	東京都教育委員会へ博物館等運営状況定期報告書等を提出
2025年6月24日	東京都及び文部科学省へ「青少年を対象とした取組等に関する実績報告(2024年度)」を提出
2025年6月28日	内閣府へ2024年度事業報告等を届出
2025年8月12日	内閣府へ評議員の変更について届出
2025年11月1日	健康保険組合連合会東京連合会による健康優良企業「銀」の認定

届出等年月日	申請等事項
2026年11月6日	内閣府公益認定等委員会による点検調査を受検(指摘事項なし)
2026年3月25日	内閣府へ2026年度事業計画書等を届出
2026年3月31日	改正博物館法における東京都の登録博物館として再登録

10. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額
公益目的事業に充当	SOMPOホールディングス(株)	117,700,000円
	法人・団体 23件	6,180,000円
	個人 42件	1,705,000円
法人の管理運営に充当	SOMPOホールディングス(株)	36,300,000円

11. 行政庁指示に関する事項

該当なし

12. 内部統制の整備に関する事項

- 「SOMPO美術財団のパーパス」に基づき事業計画の骨子を定め、中長期の対応方針を策定している。
- 展覧会企画決定プロセスに基づき、有識者による諮問等を経て展覧会を選定している。
- 「コンプライアンス規程」「リスク管理規程」「個人情報の保護規程」等に従い、財団及び美術館運営における法令遵守やリスク管理に努めている。
- 改正認定法の施行に伴い、公益充実資金等取扱規則を改定した。
- 改正博物館法における東京都の登録博物館として再登録を受けた。
- 改正育児・介護休業法の施行に伴い人事諸規程を改定し、労使協定を締結した。
- 勤怠管理ソフトや給与明細等の電子配信システムの導入により、法令遵守や業務効率化の仕組みを作った。

13. 運営体制の充実を図るための取組

- 公認会計士により四半期ごとに会計処理や内部管理体制へのレビュー・助言を受けている。
- 展覧会ごとに役員・評議員へ情報提供を行っている。
- 学芸アドバイザーによる指導・育成により、学芸員の専門性を高めている。
- 事務局において国立アトリサーチセンターによる「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」をオンライン受講した。
- 公益法人制度の改正や新会計基準に関する外部セミナー等を受講し、新制度への対応を進めている。
- 寄付金募集においてDXシステムを活用し、支援者増や業務効率化を図っている。
- 社内業務の効率化・改善を目的に、事務局における生成AIの利用を開始した。

14. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上